

配置パターン		A	B	C	D
配置 学校 位置	小学校 4校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校
		一之宮小学校	旭小学校	一之宮小学校	旭小学校
		旭小学校	小谷小学校	旭小学校	小谷小学校
		小谷小学校	南小学校	小谷小学校	南小学校
中学校 2校	寒川中学校	寒川中学校	旭が丘中学校	旭が丘中学校	
	旭が丘中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	寒川東中学校	

確認項目		内容	各パターンの共通する事項	A	B	C	D
学校 規模	1 小学校 2学級以上が確保できるか。 【第1段階検討項目】	・新たに想定される学区により学級数を推計し、小学校において、基本方針で定めた基準を満たすか。 ※【参照】児童生徒数シミュレーション		○ 1学年2学級以上を推移。	○ 1学年2学級以上を推移。	○ 1学年2学級以上を推移。	○ 1学年2学級以上を推移。
	2 中学校 3学級以上が確保できるか。 【第1段階検討項目】	・新たに想定される学区により学級数を推計し、中学校において、基本方針で定めた基準を満たすか。 ※【参照】児童生徒数シミュレーション		○ 1学年3学級以上を推移。	○ 1学年3学級以上を推移。	○ 1学年3学級以上を推移。	○ 1学年3学級以上を推移。
	3 大規模校が発生しないか。	・新たに想定される学区により学級数を推計し、2040年以降に標準規模（12～18学級）をはるかに超える大規模校は発生するか。 大規模校：25学級以上 過大規模校：31学級以上 ※【参照】児童生徒数シミュレーション		○ 現一之宮小学校に配置される学校が他と比較して多い児童数となるが、24学級を超えることはない。	○ 現南小学校に配置される学校が他と比較して多い児童数となるが、24学級を超えることはない。	○ 現一之宮小学校に配置される学校が他と比較して多い児童数となるが、24学級を超えることはない。	○ 現南小学校に配置される学校が他と比較して多い児童数となるが、24学級を超えることはない。
通学 条件	4 適切な通学距離が設定できるか。 【第1段階検討項目】	・小学校 おおむね2km以内 ・中学校 おおむね3km以内 となっているか。 ※【参照】小・中学校 配置距離図		○ 全小・中学校が範囲内に収まる。	○ 全小・中学校が範囲内に収まる。	○ 全小・中学校が範囲内に収まる。	○ 全小・中学校が範囲内に収まる。
	5 各学区における主要地点から学校までの距離	・新たに想定される学区内での主要な地点（地域集会所など）を起点に、通学距離を測り、課題はあるか。 ※【参照】通学距離等確認資料		○ 各地点から想定される通学路による距離は、再配置により比較的遠方となると考えられる地域で、現状の通学距離が2倍近くになる地域があるものの、おおむね4番の範囲内に収まる。	◎ 各地点から想定される通学路による距離は、再配置により比較的遠方となると考えられる地域で、現状の通学距離が1.5倍近くになる地域があるものの、おおむね4番の範囲内に収まる。また、現南小学校は南部地域の中央に近く、低学年の通学距離に配慮した立地条件と考えられる。	○ 各地点から想定される通学路による距離は、再配置により比較的遠方となると考えられる地域で、現状の通学距離が2倍近くになる地域があるものの、おおむね4番の範囲内に収まる。	◎ 各地点から想定される通学路による距離は、再配置により比較的遠方となると考えられる地域で、現状の通学距離が1.5倍近くになる地域があるものの、おおむね4番の範囲内に収まる。また、現南小学校は南部地域の中央に近く、低学年の通学距離に配慮した立地条件と考えられる。
6 通学の安全性が確保できるか。	・学区変更による通学の要所（鉄道、交通量の多い道路等）となる箇所や事故多発地点はあるか。 ※【参照】通学上の危険箇所等	一部の地域で、交通量や歩道の有無などにより、通学路が遠回りとなるのが想定される。	○ 寒川町通学路交通安全プログラムに基づいて、必要な対策を講じているので、現状としては大きな問題はない。	○ 寒川町通学路交通安全プログラムに基づいて、必要な対策を講じているので、現状としては大きな問題はない。	○ 寒川町通学路交通安全プログラムに基づいて、必要な対策を講じているので、現状としては大きな問題はない。	○ 寒川町通学路交通安全プログラムに基づいて、必要な対策を講じているので、現状としては大きな問題はない。	

配置パターン		A	B	C	D
配置 学校 位置	小学校 4校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校
		一之宮小学校	旭小学校	一之宮小学校	旭小学校
		旭小学校	小谷小学校	旭小学校	小谷小学校
		小谷小学校	南小学校	小谷小学校	南小学校
中学校 2校	寒川中学校	寒川中学校	旭が丘中学校	旭が丘中学校	
	旭が丘中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	寒川東中学校	

確認項目		内容	各パターンの共通する事項	A	B	C	D
学校と 地域との 連携	7	自治会からの協力や連携のしやすさ。 ・多くの自治会からの協力や連携を進める上で、地域住民が学校へアクセスが容易であるか。 ※【参照】区域重ね図（小・中学校）	4番で示す通り一定の距離の範囲内に収まっている。	▲ 南東部の自治会からの小中学校へのアクセスがやや遠くなる。	△ 南西部の自治会については、小学校へのアクセスが、南東部の自治会については中学校へのアクセスがやや遠くなる。	△ 南東部の自治会については、小学校へのアクセスが、南西部の自治会については中学校へのアクセスがやや遠くなる。	▲ 南西部の自治会からの小中学校へのアクセスがやや遠くなる。
	8	「地域とともにある学校」としての利便性は確保できるか。 ・児童クラブや広域避難場所等、地域の施設としての機能の視点から、地域住民の利便性を配慮した配置となっているか。 ※【参照】区域重ね図（小・中学校） 寒川町防災マップ	現一之宮小学校または現南小学校に配置される学校の児童クラブに関しては、児童数が増加するため既存より大きくする必要がある。	○ 広域避難場所としては、現南小学校に隣接する寒川高校があることから、地域的なバランスは保たれる。	○ 広域避難場所としては、地域的なバランスはよい。	○ 広域避難場所としては、現南小学校に隣接する寒川高校があることから、地域的なバランスは保たれる。	△ 広域避難場所としては、南西部に広域避難所が未設置となることから地域的なバランスにかけられるため、南西部に広域避難所等の機能を持たせた施設等の設置が必要と考えられる。
施設の 機能	9	十分な敷地要件を確保できるか。 既存の敷地において、 ・小・中学校設置基準（文部科学省令）を満たしているか。 ・新たに想定される学級数に応じた必要面積を十分確保できるか。 ※【参照】小・中学校設置基準 義務教育諸学校施設費国庫負担法の基準（以下「義務教育学校国庫基準」という）	令和4年5月時点と、令和22年（2040年）推計の児童生徒数や学級数を用い算出した、小・中学校設置基準で必要とされる面積を既存の敷地面積が全校上回っている	○ 確保できている。	○ 確保できている。	○ 確保できている。	○ 確保できている。
	10	十分な建物要件を確保できるか。 既存の校舎や体育館等において、 ・小・中学校設置基準（文部科学省令）を満たしているか。 ・新たに想定される学級数に応じた必要面積を十分確保できるか。 ・統合に伴う普通教室数は十分確保できているか。 ・少人数学級導入に伴う普通教室数は確保できるか。（増築の必要があるか。） ※【参照】学校の敷地及び建物の要件確認 ・小・中学校設置基準 ・義務教育学校国庫基準 上記2基準と比較して確認する	既存の校舎や体育館は、下限値としての面積基準である小・中学校設置基準を満たしている。 再配置により影響の出ない学校にあっては、普通教室等の確保が十分にできる。	△ 義務教育学校国庫基準については、寒川中学校と旭が丘中学校の校舎以外は満たしていない。 普通教室数は、現一之宮小学校は、現状の普通教室数では不足が予想されるが、文化財学習センターを他の学校へ移設することにより確保することができると想定される。 現寒川中学校にあっては、現状の普通教室数では不足するものの、他に使用している教室やスペース等の活用することで確保可能と想定される。	○ 義務教育学校国庫基準については、寒川中学校と旭が丘中学校の校舎以外は満たしていない。 普通教室数は、現南小学校は、現状の普通教室数では不足するものの、ホール等他に利用しているスペースが多数あるため、一部改築により対応が可能と想定される。 現寒川中学校にあっては、現状の普通教室数では不足するものの、他に使用している教室やスペース等の活用することで確保可能と想定される。	△ 義務教育学校国庫基準については、旭が丘中学校の校舎以外は満たしていない。 普通教室数は、普通教室数は、現一之宮小学校は、現状の普通教室数では不足が予想されるが、文化財学習センターを他の学校へ移設することにより確保することができると想定される。 現寒川東中学校にあっては、現状のまま十分な教室数を確保することができる。	○ 義務教育学校国庫基準については、旭が丘中学校の校舎以外は満たしていない。 普通教室数は、現南小学校は、現状の普通教室数では不足するものの、ホール等他に利用しているスペースが多数あるため、一部改築により対応が可能と想定される。 現寒川東中学校にあっては、現状のまま十分な教室数を確保することができる。

配置パターン		A	B	C	D
配置 学校 位置	小学校 4校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校
		一之宮小学校	旭小学校	一之宮小学校	旭小学校
		旭小学校	小谷小学校	旭小学校	小谷小学校
		小谷小学校	南小学校	小谷小学校	南小学校
	中学校 2校	寒川中学校	寒川中学校	旭が丘中学校	旭が丘中学校
		旭が丘中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	寒川東中学校

確認項目		内容	各パターンの共通する事項	A	B	C	D
施設 の 機能	11 教育方法等の多様化への課題はあるか。	<p>既存の建物において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的スペースや少人数教室等、教育方法等の多様化に応じる施設整備が行われているか。 ・校内LANの整備等、ICT化への対応は十分か。 <p>統合後の対策がどの程度必要が確認する。</p> <p>※【参照】各校における教室等の配置状況一覧</p>	<p>校内LAN整備等のICT化については、現状でき得る対応はできているものの、ICT化に対応した机やモニターの導入なども考慮し、建替え等の際は普通教室の面積を現状より広げるなどの対応が必要と考えられる</p> <p>再配置時影響のない学校については、多目的スペース等を十分確保できる。</p>	<p>△</p> <p>現一之宮小学校は普通教室確保のため、多目的教室等の不足が想定されるが、文化財学習センターを他校へ移設することにより多目的教室等の確保ができる。</p> <p>現寒川中学校にあっては、他のスペースが多数あることから、十分確保できると想定される。</p>	<p>○</p> <p>現南小学校は普通教室確保のため、多目的教室等の不足するが、その他のスペース等が多いため、改築等により確保できると想定される。</p> <p>現寒川中学校にあっては、他のスペースが多数あることから、十分確保できると想定される。</p>	<p>△</p> <p>現一之宮小学校は普通教室確保のため、多目的教室等の不足が想定されるが、文化財学習センターを他校へ移設することにより多目的教室等の確保ができる。</p> <p>現寒川東中学校は、現状のまま十分な教室数が確保できる。</p>	<p>○</p> <p>現南小学校は普通教室確保のため、多目的教室等の不足するが、その他のスペース等が多いため、改築等により確保できると想定される。</p> <p>現寒川東中学校は、現状のまま十分な教室数が確保できる。</p>
	12 複合化の可能性はあるか。	<p>・現状の利用状況を踏まえ、複合化等の余地について整理する。</p> <p>※【参照】各校における教室等の配置状況一覧</p> <p>町内公共施設位置（寒川町防災マップ）・複合利用事例</p>	<p>再編時影響のない学校については、2040年以降の学級数以上の教室数があるため、複合化の余地がある。</p>	<p>△</p> <p>現一之宮小学校は、再配置後に必要な教室数を確保するため、文化財学習センターを他校へ移設する必要があり、複合化の余地は少ない。</p> <p>現寒川中学校にあっては、普通教室や目的教室等を確保したうえで、他のスペースが等があるため、複合化の余地は少ない。</p>	<p>△</p> <p>現一之宮小学校から文化財学習センターを他校へ移設が必要となるため、再編時影響のない学校にあっては、複合化できるスペースが縮小する。</p> <p>現南小学校は、再配置後に必要な教室数を確保するため、他のスペースを活用する必要があるので、複合化の余地は少ない。</p> <p>現寒川中学校にあっては、普通教室や目的教室等を確保したうえで、他のスペースが等があるため、複合化の余地がある。</p>	<p>△</p> <p>現一之宮小学校は、再配置後に必要な教室数を確保するため、文化財学習センターを他校へ移設する必要があり、複合化の余地は少ない。</p> <p>現寒川東中学校は、普通教室や多目的教室等を確保したうえで、その他のスペースが多いため、複合化の余地がある。</p>	<p>△</p> <p>現一之宮小学校から文化財学習センターを他校へ移設が必要となるため、再編時影響のない学校にあっては、複合化できるスペースが縮小する。</p> <p>現南小学校は、再配置後に必要な教室数を確保するため、他のスペースを活用する必要があるので、複合化の余地は少ない。</p> <p>現寒川東中学校は、普通教室や多目的教室等を確保したうえで、その他のスペースが多いため、複合化の余地がある。</p>

配置パターン		A	B	C	D
配置 学校 位置	小学校 4校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校
		一之宮小学校	旭小学校	一之宮小学校	旭小学校
		旭小学校	小谷小学校	旭小学校	小谷小学校
		小谷小学校	南小学校	小谷小学校	南小学校
中学校 2校	寒川中学校	寒川中学校	旭が丘中学校	旭が丘中学校	
	旭が丘中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	寒川東中学校	

確認項目		内容	各パターンの共通する事項	A	B	C	D			
施設 の 機能	13	施設の使用目標年数を超過する時期と修繕、更新(建替え)時期のタイミングは適切か。		再編スケジュール案のとおり、劣化度の進んでいる校舎等の改修や更新を優先的に行うことで、安全な利用が可能と考えられる。	再編スケジュール案のとおり、劣化度の進んでいる校舎等の改修や更新を優先的に行うことで、安全な利用が可能と考えられる。	再編スケジュール案のとおり、劣化度の進んでいる校舎等の改修や更新を優先的に行うことで、安全な利用が可能と考えられる。	再編スケジュール案のとおり、劣化度の進んでいる校舎等の改修や更新を優先的に行うことで、安全な利用が可能と考えられる。			
整備 経費 の 検討	14	更新(建替え)までにかかる費用はいくらか。	<p>○長寿命化を実施する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校舎の建築後の経過年数と使用目標年数(終期)及び現在の劣化度等から、修繕、更新(建替え)時期を想定し安全な利用が可能か。 ※【参照】再編スケジュールと費用の試算 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校舎を建替えるまでに相当な期間を要する(2068年完了予定) ・1期当たりに行う建築工事件数や費用の平準化を図ることができるが、最もコストがかかる。 	修繕費 825,417,000円 除却費 1,837,879,000円 大規模改修(長寿命化)費 3,544,244,000円 設計費 更新(建替)費 14,981,432,000円 計 21,188,972,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,808,257,000円 大規模改修(長寿命化)費 3,404,218,000円 設計費 更新(建替)費 15,011,054,000円 計 21,048,946,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,119,634,000円 大規模改修(長寿命化)費 5,590,819,000円 設計費 更新(建替)費 15,699,677,000円 計 23,235,547,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,090,012,000円 大規模改修(長寿命化)費 5,450,793,000円 設計費 更新(建替)費 15,729,299,000円 計 23,095,521,000円		
					<p>○一部長寿命化を実施する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再配置する学校は原則建替えることとし、その他の学校で長寿命化の経済合理性の高い校舎等を長寿命化実施する。 修繕費：2036年度までにかかる修繕費 除却費：未配置となる学校の校舎等の除却費 大規模改修費：長寿命化を行う際の工事費 設計費：更新(建替)する際の設計委託料 更新(建替)費：更新(建替)する際の建築費(建替え時の除却費も含む) ※【参照】再編スケジュールと費用の試算 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎を建て替えまでに相当期間が多少短縮できる(2063年完了予定) ・一部長寿命化を実施することで、ある程度の建築工事件数や費用の平準化を図ることができる。 	修繕費 825,417,000円 除却費 1,837,879,000円 大規模改修(長寿命化)費 2,370,768,000円 設計費 更新(建替)費 14,981,432,000円 計 20,015,496,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,808,257,000円 大規模改修(長寿命化)費 2,903,568,000円 設計費 更新(建替)費 15,011,054,000円 計 20,548,296,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,119,634,000円 大規模改修(長寿命化)費 2,370,768,000円 設計費 更新(建替)費 15,699,677,000円 計 20,015,496,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,090,012,000円 大規模改修(長寿命化)費 2,903,568,000円 設計費 更新(建替)費 15,729,299,000円 計 20,548,296,000円
					<p>○建て替えを原則とする場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再配置する学校を優先的に建て替えるが、その他の学校も建て替えを原則とする場合。 修繕費：2036年度までにかかる修繕費 除却費：未配置となる学校の校舎等の除却費 改修費：再配置校で建築60年まで相当な期間がある校舎に対する増改築費 設計費：更新(建替)する際の設計委託料 更新(建替)費：更新(建替)する際の建築費(建替え時の除却費も含む) ※【参照】再編スケジュールと費用の試算 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則建て替えを行うことで、2058年を目途に全校舎の建て替えを完了することができる。 ・最もコストが安くなるものの、1期当たりに行う建設工事件数や費用は増大し、前期に集中する。 	修繕費 825,417,000円 除却費 1,837,879,000円 改修費 0円 設計費 更新(建替)費 14,981,432,000円 計 17,644,728,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,808,257,000円 改修費 532,800,000円 設計費 更新(建替)費 15,011,054,000円 計 18,177,528,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,119,634,000円 改修費 0円 設計費 更新(建替)費 15,699,677,000円 計 17,644,728,000円	修繕費 825,417,000円 除却費 1,090,012,000円 改修費 532,800,000円 設計費 更新(建替)費 15,729,299,000円 計 18,177,528,000円

配置パターン		A	B	C	D
配置 学校 位置	小学校 4校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校
		一之宮小学校	旭小学校	一之宮小学校	旭小学校
		旭小学校	小谷小学校	旭小学校	小谷小学校
		小谷小学校	南小学校	小谷小学校	南小学校
	中学校 2校	寒川中学校	寒川中学校	旭が丘中学校	旭が丘中学校
		旭が丘中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	寒川東中学校

確認項目	内容	各パターンの共通する事項	A	B	C	D
整備 経費 の 検討	15 公民連携の可能性	・公民連携による施設の建築及び管理運営が可能か。 ※【参照】公民連携事例	学校施設の公民連携に当たっては、何を複合化していくのかと併せて検討し、VFMなども確認確認の上、導入の可否について慎重に判断する必要がある。	○ 施設の更新にあたり、町が直接整備する手法だけでなく、PPPやPFI等の公民連携による施設の整備も想定される。	○ 施設の更新にあたり、町が直接整備する手法だけでなく、PPPやPFI等の公民連携による施設の整備も想定される。	○ 施設の更新にあたり、町が直接整備する手法だけでなく、PPPやPFI等の公民連携による施設の整備も想定される。
	16 跡地利用の可能性	・学校再配置の結果、未配置校となった学校敷地の利活用・売却の見込みについて。 ※【参照】校地土地用件表		▲ 未配置となる現南小学校と現寒川東中学校は共に市街化調整区域に位置する。両校ともに、学校以外の利活用の幅が狭く、売却の見込みは薄い。	△ 未配置となる現一之宮小学校は、第1種住居地域、現寒川東中学校は市街化調整区域に位置する。現一之宮小学校は、比較的利活用の幅は広く売却の見込みはあるが、現寒川東中学校は、学校以外の利活用の幅は非常に狭いため、売却の見込みは薄い。	◎ 未配置となる現南小学校は市街化調整区域、寒川中学校は第1種中高層住居専用地域に位置する。現南小学校は、学校以外の利活用の幅は非常に狭いため、売却の見込みは薄い。寒川中学校は、住居としての利活用は可能であるため、売却の見込みは薄い。

新しい 学校の かたち	17 小・中一貫教育導入時の有効性	・配置状況などから連携しやすいか、弊害となることは何かなどにより比較 ※【参照】小・中一貫教育導入に係る課題整理表	町では小中一貫教育の施設分離型(1中・2小)を想定している。区分けとして、北部地域(北ブロック)と南部地域(南ブロック)に分けた分離が適しており、中学校と小学校が近くにあるパターンが適切であると考えられる。A～Dの配置パターンにおいては、どれも運営上における課題は見られない。			
	19 コミュニティ・スクール	・配置状況などからコミュニティ・スクールの運営の課題などがあるか。 ※【参照】コミュニティ・スクール推進に係る課題整理表	現在、コミュニティ・スクールを順次設置予定である。今後、小中一貫教育の推進とともに、学校運営協議会の持ち方(単独実施型、連携実施型等)の検討が必要と考える。また、自治会と学区の関係性を考慮する必要がある。			
	20 少人数学級	・少人数学級への対応が可能か。 ※【参照】少人数学級に係る課題整理表	国の施策により、小学校では順次35人以下学級を導入が進められている。中学校においては、現段階において方向性が示されていない。しかしながら、今後の「35人学級」に柔軟に対応できるように、余裕教室や教員の確保が必要となる。			

配置パターン		A	B	C	D
配置 学 校 位 置	小学校 4校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校	寒川小学校
		一之宮小学校	旭小学校	一之宮小学校	旭小学校
		旭小学校	小谷小学校	旭小学校	小谷小学校
		小谷小学校	南小学校	小谷小学校	南小学校
	中学校 2校	寒川中学校	寒川中学校	旭が丘中学校	旭が丘中学校
		旭が丘中学校	旭が丘中学校	寒川東中学校	寒川東中学校

確認項目		内容	各パターンの共通する事項	A	B	C	D
総 括	21 総括	・項目全体的な整理		<p>現一之宮小学校は南部地域の中で、比較的西に位置するため、東部地域の通学距離が遠くなることが想定される。</p> <p>また、現寒川中学校を配置することで、南東部の学校が未配置となり、配置バランスにかけるが、広域避難所等においては、寒川高校があるため、ある程度のバランスは保たれる。</p> <p>しかし、未配置校を市街化調整区域の2校とすることで、今後、進めていく新しい学校の形を実現するための財源を確保することができなくなる。</p>	<p>現南小学校は、南部地域の中心に近い場所に位置するため、南部地域の小学生の通学距離を考慮すると、バランスの良い立地と考えられる。また、現一之宮小学校が配置されないが、南西部に寒川中学校が配置されることで、小中学校合わせても配置バランスが保たれる。</p> <p>未配置校の2校の内、1校は市街化区域であることから、跡地利用に期待できるが、1校が市街化調整区域となることで、今後、検討される新しい学校の形を実現するための財源の確保が半減する。</p> <p>財源を確保した際は、教育に特化した基金等の設立をすべきと考える。</p>	<p>現一之宮小学校は南部地域の中で、比較的西に位置するため、東部地域の通学距離が遠くなることが想定される。</p> <p>南東部に寒川東中学校を配置することで、小中学校合わせても配置バランスが保たれる。</p> <p>未配置校の2校の内、1校は市街化区域であることから、跡地利用に期待できるが、1校が市街化調整区域となることで、今後、検討される新しい学校の形を実現するための財源の確保が半減する。</p> <p>財源を確保した際は、教育に特化した基金等の設立をすべきと考える。</p>	<p>現南小学校は、南部地域の中心に近い場所に位置するため、南部地域の小学生の通学距離を考慮すると、バランスの良い立地と考えられるが、寒川東中学校とすることで、南西部に学校と学校が果たしていた広域避難所が配置されなくなることから、地域のバランスを欠くため、南西部に広域避難所等の機能を持たせた施設等の設置が必要と考える。</p> <p>また、未配置校が市街化区域の2校となるため、今後、進めていく新しい学校の形を実現するための財源を確保することができる。</p> <p>財源を確保した際は、教育に特化した基金等の設立をすべきと考える。</p>